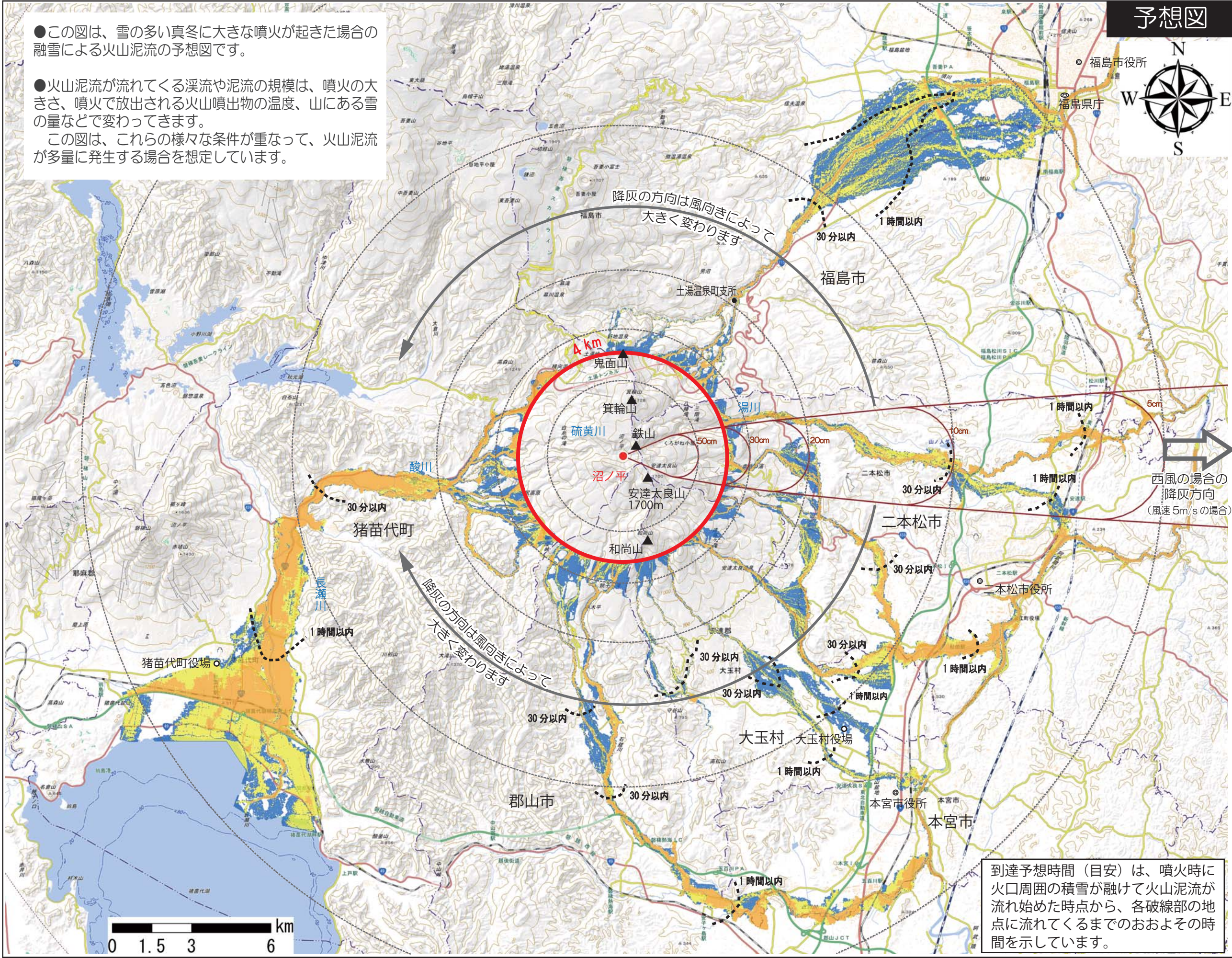


融雪による火山泥流ハザードマップ

山に雪があるときに噴火が起きると、噴出物の熱で火口周囲の雪が融けて火山泥流が発生しやすくなります。

●この図は、雪の多い真冬に大きな噴火が起きた場合の融雪による火山泥流の予想図です。

●火山泥流が流れてくる渓流や泥流の規模は、噴火の大きさ、噴火で放出される火山噴出物の温度、山にある雪の量などで変わってきます。
この図は、これらの様々な条件が重なって、火山泥流が多量に発生する場合を想定しています。



予想図

山に雪がある時期に噴火が起きると、噴出物の熱で火口の周囲の雪が短時間に融ける「融雪による火山泥流」が発生しやすくなります。噴火による雪融け水が急に谷底に集まって、一気に増えた水かさによって土石や樹木を大量に押し流します。特に雪の多い真冬に噴火が起きると、非常に大量の雪が融けるため火山泥流の量も非常に多くなり、下流での被害も大きくなります。

＜融雪による火山泥流の事例＞
1926年（大正15年）5月の十勝岳（北海道）の噴火では、融雪による火山泥流が発生して、火口から25km離れた下流の上富良野村（当時）や美瑛村（当時）まで約25分（時速約60km）で流れ下り、死者・行方不明者144名もの被害が発生しました。

- 沼ノ平火口
- 噴石
- 降灰（西風の場合）
- 降灰（西風以外の場合）
- 県境
- 市町村境
- 国道
- 高速道路
- 県道
- 鉄道

融雪による火山泥流の到達予想時間（目安）

30分以内

融雪による火山泥流の浸水高（目安となる氾濫水深）

2m以上

2m未満～50cm以上

50cm未満（大人のひざ上）

到達予想時間（目安）は、噴火時に火口周囲の積雪が融けて火山泥流が流れ始めた時点から、各破線部の地点に流れてくるまでのおよその時間を示しています。

「融雪による火山泥流」災害予想区域図は、安達太良山が積雪期に噴火した場合に、高温の噴出物による熱で火口周囲の雪が融けた水とその水量で下流に運ばれた噴出物や河床の土砂が氾濫した場合の想定範囲を数値計算により算出したものです。想定した雪の量は、平年の積雪状態で、かつ年間で最も雪が多い真冬の条件を想定しています。